

陽の里



発行 令和2年4月1日

社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.143

テーマ

「ワーク・ライフ・バランス推進 エクセレント企業認定」



令和元年度

岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業認定式



社会福祉法人 新生会
理事長 今村 寧

岐阜県では、仕事と家庭の両立支援などに取り組む「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業」の中で、特に優良な取組みや他社の模範となる独自の取組みを行う企業を「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」として認定を行っている。令和元年度に、社会福祉法人新生会もこのエクセレント企業の仲間入りとなった。しかし、新生会の歴史を紐解いてみると昭和の時代から職場に子供を連れてくる職員は普通にいたのである。出産・子育てはお互い様であり、自分なりの生活や生き方がそれぞれにある。自分の生活を認めてほしいならば、他人の生活を認めていく必要がある。これは理念である、「他人の痛みを我が事として・・・」に通じるものである。

新生会は開設当初より、新生会語録カレンダーにも取り上げられている「なぜ？なぜ？なぜ？」という言葉に表されるように、「これでよかったのだろうか？」「答えは本当に一つだろうか？」という常に物事の根本を追求してきている。この積み重ねが現在の新生会を作り上げてきたといえる。

なぜこの人はこのような言葉を発したのか？なぜこのような行動になったのか？考えているうちに、ふと根っこが見えてくると楽しいものである。

ママ交流会を開催して

もやいの家泉 砂川 あや

新生会には、子育て中のお母さんが多く働いています。毎年、15名程の職員が産休・育休を取得し、全ての職員が職場復帰をしています。今回、3回日の育児休暇を経て職場復帰している私自身が、子育てをしながら働くママと繋がりたいという想いから、育休中・復帰後のママが集まれる会を企画・開催しました。14名の参加者と一緒に「子育てしながら働く」をテーマにワールドカフェをしました。自己紹介、興味のある事、困っていること、不安な事など、手作りケーキを食べながら、とても盛り上がりました。



手作りケーキを食べながらの【ママ交流会】

共有できる仲間がいることは大きな力となります。そんな繋がりを作るきっかけとなるような企画を、今後にも計画していきたいと考えています。

悩みや不安は、参加者でシェア

し、先輩ママからの経験談やアドバイスをもらう場面もありました。事務職員のママからは、勤務体制のレクチャーもあり、「悩んでいるのは自分だけではないんだ！」という発見や、一緒に働く職員の理解と協力、働きやすい環境を提供してくれている会社があることへの安心が得られたようです。

子育てをしながら働くママの毎日、目の回るような忙しさです。同じ会社の中で、悩みや不安を

「子連れ出勤」で得られたこと

サンビレッジ岐阜 言語聴覚士 井上 梓美

新生会に入社しこの春で10年目を迎えます。もうすぐ6歳になる息子は、生後9ヶ月から岐阜駅前保育みつけのおうちに通い、私は職場復帰を果たしました。

復帰前は育児・仕事の両立に不安が募っていましたが、復帰後は家族以外の人々と関わり合いながら成長していくわが子の姿、その成長と一緒に発見して喜んでくれる職員の方々の存在が支えとなりました。息子が熱を出し、仕事を休むことも多く、「また職場に迷惑をかけてしまう…」と落ち込むこともありましたが、「二人で頑張らなくてもいいよ」「育児と両立できる方法を考えよう」と周囲のスタッフからの応援もあり、仕事スケジュールを見直したり、日頃から子供の体調や家の状況など周囲に伝えたりして安心して仕事が継続できました。また、会議には息子同伴であることを受け入れてもらえ、自分の仕事を全

うすることができました。

そんな環境のおかげで息子も「ママのおしごと」を大切に思ってくれるようになってくれました。今年の夏に2人目の出産を控えています。社会の一員として働く自分自身も大切にしながらいきまも育児・仕事と向き合っていきたいと思えます。



▲息子と同伴でも仕事のできる環境があります

「しんせい語録」の読み解き

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。



排泄を他人に託す

心の痛みを知る

リハビリセンター白鳥 デイサービス
リーダー 高橋さおり

サンビレッジ新生苑では、入社すると同時に障がい者体験を実施しています。本当の意味で相手の立場に立つという事は容易な事ではないと思いますが、少しでも相手の立場に立つ努力は介護職をする上ではとても重要な事なのだと思っております。

「排泄は最後まで自分で行いたい」そう思う気持ちは当然だと思えます。

しかし、様々な病気等によって人に頼らざるを得ない状況になったとき、また嫌なことを他人に頼まなくてはいけなくなったとき、介護者はその痛みや思いを理解し、環境調整（雰囲気づくりや人間関係の構築等）することが大切な事だと思えます。

ある日、いつもは自立で排泄行為を行なわれているAさんがパー



▲「相手の立場に」を心がけ寄り添う

キンソン病を発症され、日々体の動き易さに変化があり、うまく排泄行為が行なえず、失禁され衣類交換を介入させて頂くことがありました。その日は帰宅されるまで「悪かったなあ」と何度も言われていたことをこの語録を聞くたびに思い出します。

羞恥心を大切にし、排泄時膝の上にタオルを掛ける、大きな声でトイレ誘導は行なわない等、基本的なケアを思い返し、もう一度初心に戻り他人の痛みのわかる介護職になりたいと思えます。

vol.26

「サンビレッジの仲間たち」

サンビレッジケアマネジメントセンターII

介護支援専門員 北川美和

新生会と出逢ったのは介護保険がスタートした年でした。ホームヘルパー、デイサービスの職員を経て、今はケアマネジャーとして働いています。

ヘルパーを始めた当初は、家事支援も多く、各家庭の調理や掃除方法を教わりました。また、身体介護や認知症ケア、看取りケアにも携わりました。訪問は一人ですが、アセスメントをしてケアを行いチームで支援する事を学びました。

デイサービスでは、「年を取って、知恵はあっても、初めての事もあるんだよ」と、初めて行うレクリエーションに嬉しそうに参加している姿を見て、人は歳を重ねながら変化・成長しつづける事を実感しました。

ケアマネジャーとなり、介護保険の更新をせず、「可能な限り自分で生活される事を選択される方、看取りの時期に「お風呂に入りたい」と希望され、数日後に亡くなられる方もみえました。自分の意志で生き抜くことの素晴らしさを教えていただきました。

職種は違ってもご利用者の生活を支えていくことに変わりありません。共に振り返り検討しあえる仲間がいて、支援に繋がる。その繰り返しをご利用者の生活を豊かにしていく。その笑顔が糧となり、私は20年目を迎えました。

思いに寄り添う気持ちを大切に「いい人生だった」と思っていただけのように、これからもご利用者、ご家族と向き合っていくと思えます。



▲デイセンターで寄り添い体調を尋ねています

さんび校

令和元年10月3日

“ベトナムでの医療福祉支援活動報告会”開催 作業療法学科の卒業生、飯塚氏を招き、青年海外協力隊として行ったベトナムでの経験を講演していただきました。



トピックス



ひろとり

令和2年元旦

白鳥神楽を迎え新年を祝いました。



つむら

節分の日
に豆まきを
しました。



皆さんで
ちらし寿司を作ってひな祭りをしました。



ちゃぼぼ

宮地保育園交流会

令和2年2月4日 卒園を控えた年長児さんに、利用者さんから手作りのネズミの張り子をプレゼント



アンキーノ

宮路アンキーノにお住いの方が、地域や法人に奉仕の心で、竹ぼうきを1本1本丁寧に作って下さいました。



みずほ

【こけ玉作り】初開催のこけ玉作り。ボランティア講師の指導のもと、作品を作り上げました。



【公開講座：認知症勉強会】ほづみ駅前公開講座を開催。協力病院である広瀬内科の広瀬功先生による認知症についての講座が行われました。



ぎふ

“こよみのよぶね”開催



「3」の数字行灯が見事に点灯、素敵な曆船でした。皆さん、ご協力ありがとうございました。



オムツフィッター講座

シティータワー診療所の島崎亮司先生を講師に迎え、オムツフィッター講座を開催しました。

ひんせいえん

池田こどもえんの皆さんと豆まきをしました。ひまわりホールで元気にバンザイ

